

支部だより

Newsletter No.47

広報委員会

(一社)日本道路建設業協会中部支部

〒460-0003

名古屋市中区錦三丁目10番14号

協和館ビル内

TEL 052-971-5310

迎春

HAPPY
NEW
YEAR





目次

支部長新年挨拶	01
幹事長新年挨拶	01
中部地方整備局長新年挨拶	02
道路建設技術講演会	03
舗装施工管理技術者技術講習会	04
アスファルト舗装に関する講習会を開催	05
技術委員会【建設技術フェア2013in中部】	06
防災訓練	07
安全委員会【安全パトロール】	08
社会・環境貢献活動【AED贈呈式】	10
中部緊急防災【防災隊式典・班長会議】	11
会員だより	12
季節の写真・会員異動・編集後記	13
道路開通	14

■表紙写真

国土交通省「道の駅」シリーズ
国道1号
掛川

路線名	国道1号
営業時間	9:00~17:00
駐車台数	普通車226台、大型75台、 身障者専用6台
休館日	第2月曜日 ※休業日は変わることがあります。

ここがポイント!

駅内には、毎朝出荷される新鮮・安全はもとより、今しか・ここしか・これしかない旬の味や本物の味にこだわった農産物の直売所のほか、レストラン・土産物等の販売施設などがあります。



駅長からのメッセージ

国道1号掛川バイパスの上り、下り線どちらからでもアクセスできるこの道の駅は、地元農家が丹精込めて育てた新鮮で安心、安全な地場産農産物を中心とした農産物直売コーナーをはじめ、そば、うどんから手作り料理にこだわった3つの食堂があります。また、お茶処東山の深蒸し茶、手作り工房のソーセージ等、コンビニまであり、ドライバーの休憩施設としてだけでなく、観光等の情報も満載して皆様をお待ちしております。是非、一度お立ち寄りいただいて、おもてなしの心を感じて下さい。

新年挨拶

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は支部役員並びに会員の皆様には当協会活動に何かとご協力を賜り誠に有難うございました。

新しい年を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は我々道路業界を取り巻く環境が激変したと言っても過言ではないと思います。デフレからの脱却と経済再生を旗印に、いわゆる「アベノミクスの三本の矢」が昨年6月に閣議決定されました。その先行とし15カ月予算が執行され、4月に入り、矢継ぎ早に、我々の身近な「公共労務設計単価」が2桁パーセントの引き上げがなされ、調査基準価格の見直しも行われました。また身近なところでは紀勢線開通と伊勢神宮で20年に一度の式年遷宮の年に当たり、三重県も賑やかな年となりました。

本年につきまして当協会は、昨年同様明日の道路建設業界を担う人材の確保、更には労働環境改善を喫緊の課題として捉え活動してまいります。また当支部につきましては各種「意見交換」等を活発に行い、入札・技術・安全等の更なる改善・提案を会員皆様と手を携えて図ってまいりたいと考えております。

今年は干支で「甲午」(きのえうま)の年、さて60年前「1954年の甲午」はどんな年だったか? 映画「ゴジラ」が放映され、ドラゴンズが初のセリーグ優勝の年でした。今年は……いずれにしても良い年にしたいものです。

結びに会員各社のご隆盛と会員皆様のご健勝・ご多幸を祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



支部長
川端 清太
一般社団法人日本道路建設業協会 中部支部



2014年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

旧年中は(一社)日本道路建設業協会支部会員の皆様には、当支部の事業活動に対しまして多大なご支援、ご協力をいただき心より厚く御礼申し上げます。

昨年前半には第二次安倍内閣が発足し、物価上昇率2%を目標にデフレの脱却・公共事業費の拡大に依って建設業界に大きな追い風となりました。

また、2020年のオリンピック・パラリンピック東京開催決定や2027年開業を目指しているリニア中央新幹線の建設等の大きなプロジェクトも決定し、日本経済の転機になると期待されております。

我々の地元東海地区においても想定される、南海トラフ巨大地震に備え道路インフラの拡充を中心とした整備が急務となっております。

しかしながら、グローバル化が進んだ今日の経済活動に於いて、アメリカ経済の上昇効果や中国経済の不透明感、隣国韓国や中国との領土問題、福島第一原発の汚染水問題など様々な問題があります。

本年度4月より消費税率が8%の税添加となり、経済活動の縮小が懸念される中、上昇傾向となっている民間設備投資への影響も心配されるところです。

会員皆様方と共に、道路建設業界が社会資本整備に貢献出来る、誇りある存在であるために更に知恵を出し、汗を流して前進していきたいと思っております。

最後に、皆様方のご健勝と各社のご発展を祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

幹事長
寺林 裕二
一般社団法人日本道路建設業協会 中部支部



新年挨拶



国土交通省
中部地方整備局長
八 鍬 隆

平成26年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日本道路建設業協会の皆様におかれましては、平素より国土交通行政の推進に格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、台風18号による近畿地方の豪雨災害や台風26号による伊豆大島の土砂災害、中部地方では浜松市天竜区春野町の地すべりや静岡県西伊豆町の豪雨災害など、改めて大規模災害の脅威を認識する事象が多く発生し、緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)による多くの支援活動も行いました。被災された皆様の日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

他方、命・絆・元気の道である熊野尾鷲道路の開通や名古屋都市圏の発展とともに歩んできた名古屋高速道路の全線開通など、防災・観光・交流をはじめとする多様な面で大きなインパクトがありました。また、富士山世界文化遺産登録や伊勢神宮式年遷宮の年でもあり、中部地方における大きな節目の年となりました。

これらの自然的、社会的な状況を踏まえ、中部地方整備局では、社会資本整備を通じて、地域の安全・安心の確保、及び地域の持続的発展を支えるため、次の3つの柱を重点的に取り組み、展開していきたいと考えております。

一点目は、「安全・安心な地域づくりの推進」です。

南海トラフ巨大地震による死者は最大約32万人、被害額は全国で約220兆円と想定されております。この差し迫る巨大地震や大規模水害に備えるため、公共施設の耐震化や予防的治水対策、土砂災害対策、代替性の確保のための道路ネットワーク整備など、これまで進めてきた重要施策に加え、123機関が連携する「東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議」において策定した「中部圏地震防災基本戦略」を推進するとともに、南海トラフ巨大地震対策計画中間とりまとめの地方計画を策定し、関係機関との連携・協力のもと巨大地震に備えていきたいと考えております。

また、公共施設の老朽化・長寿命化対策として、定期的

な点検に基づき、計画的かつ効率的な補修を進める予防保全への転換を図ってまいります。

二点目は、「持続可能で活力ある地域づくりの推進」です。

製造品出荷額が全国の4分の1を占める「ものづくり中部」を持続的・発展的に支える陸・海・空の社会資本整備については、叡智を結集し、戦略的に推進していく必要があります。具体的には、道路や空港・港湾など効率的な物流ネットワークの強化、港湾の国際海上コンテナターミナル及び国際物流ターミナルの整備、新東名・名神高速道路やリニア中央新幹線の大規模プロジェクトを見据えた地域づくりなどを中心に、ハードとソフトを総動員し、一層の充実・強化に向けた取り組みを進めてまいります。

三点目は、「建設産業の再生と発展」です。

建設産業の再生と発展のためには、地域を支え得る足腰の強い建設産業の構築が必要と認識しており、技能労働者への適切な賃金水準確保や社会保険等未加入対策を推進しております。合わせて、若年者の入職促進に軸足を置いた広報戦略と入職に向けた効果的かつ具体的な取り組みを進めていくため、中部圏の各建設業協会等が主体となり設置されました「中部圏建設広報ネットワーク協議会」を中部地方整備局は支援してまいります。

また、災害対応をはじめとする建設分野の任務に関する情報発信の充実・強化を図るなど、より一層、迅速でわかりやすく多様な情報発信に取り組んでまいります。

今年は、新東名高速道路愛知県区間の開通やリニア中央新幹線の着工が顕在化する年でございます。このような大規模プロジェクトとの連携も含め、地域の皆様とともに、中部地方を盛り上げていくお役に立てればと考えております。

私といたしましては、国民の皆様のお安全・安心の確保と、地域の持続的発展に資する取り組みを推進していくためには、国の機関はもとより、地元自治体、経済界、学界、民間企業の皆様、とりわけ地域を支える建設産業界の皆様との連携・協力が不可欠と考えております。重ねてご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年の干支の「午(馬)」は、旺盛な生命力を象徴する動物で財運を招き事業運を高めるとされております。日本道路建設業協会の皆様にとって、幸多き年であることを心より祈念し、年頭のご挨拶といたします。

平成25年度 道路建設技術講演会



平成25年度 道路建設技術講演会を(一社)日本道路建設業協会中部支部主催、国土交通省中部地方整備局後援、(公社)日本道路協会中部ブロック・(一社)中部地域づくり協会・(一社)日本建設業連合会中部支部・(一社)名古屋建設業協会・中部緊急防災協会の共催をいただき11月12日に名古屋東文化小劇場で開催しました。公演は(一社)全国土木施工管理技士会連合会の継続学習制度(CPDS)に認定され、会場には会員の皆様、官公庁の方々を中心に271名にご参加いただきました。

開会にあたり、川端支部長から「アベノミクスの3本の矢の政策の下で、わが国経済だけでなく建設産業も転換期を迎えている。専門工事業者の待遇改善と入職促進を図る労務単価見直し諸施策、また、災害からの本格復興、急速に老朽化が進むインフラの維持・更新などへの対応に迫られているのが現状だ。こうした重要なテーマについて、新たな情報の提供を通じて技能のレベルアップ、技術の向上につなげてほしい」と述べられた開会の挨拶につき講演会に入りました。

スリップフォーム工法協会舗装委員会 藤田仁委員長は、「道路の長寿命化におけるスリップフォーム工法の取組み」について解説し、「品質のよい舗装用コンクリートと施工者の確かな技術があれば、すばらしい舗装ができるが、どちらか一方でも欠如すれば、コンクリート舗装は衰退する。」と話されました。

国土交通省中部地方整備局 上坂克巳道路部長は



川端支部長



藤田仁委員長



上坂克巳道路部長



藤井聡教授

「道路をめぐる最近の情勢」をテーマにネットワーク整備、事前防災・減災対策、長寿命化の取り組みなどを紹介されました。

京都大学大学院工学研究科 藤井聡教授は「ナショナル・レジリエンス(国土強靱化)」のテーマでさまざまな危機に直面している日本の現状を解決するプロジェクトとして、国土強靱化の必要性を講演されました。

参加者は熱心に講演に聞き入り、実りある講演会になりました。

舗装施工管理技術者技術講習会



記憶に残そう!東日本大震災から2年6か月が過ぎた9月11日、名古屋の最高気温が31度と、時候では「初秋」の挨拶で始まる日、(一社)日本道路建設業協会主催による平成25年度舗装施工管理技術者技術講習会が名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で愛知県を始め10都県から167名が参加し、舗装施工管理技術者に対し最近の舗装技術の習得と技術力の向上を目的に6時間に渡り開催されました。

冒頭開会挨拶で、(一社)日本道路建設業協会の川端支部



川端支部長挨拶

長は、舗装市場の厳しい経済状況や最高水準にある舗装技術の基礎となる「舗装施工管理技術者資格試験制度」は、1994年度に創設され95年度から試験が実施されている事、また、この試験の合格者は2012年10月時点で1・2級合わせて約6万3000人で、これら多くの専門技術者が舗装工事に携わり、舗装の技術水準と品質向上に大きく貢献している事を紹介してうえで、本日の講習を現場に活用し、ますますの技術力の向上に役立ててほしいと述べられました。

講習プログラムでは、第1章は、国土交通省中部地方整備局道路部の岡田武久道路情報管理官から「舗装事業をめぐる社会・経済情勢と各種制度」について説明があり、引き続き第2章から第4章までを道建協が担当し、「舗装工事の安全対策」・「建設副産物対策」・「最近の舗装技術の動向(Ⅰ)(Ⅱ)」についてそれぞれ説明を行いました。尚、今回の講習会ではCPDS認定講習会として5ユニットが付与されました。

最後に講習された方々の意見を抜粋しました。

- 一、情報化施工を多く取り入れて欲しかった。
- 二、最近の舗装技術の動向について実際に実施している傾向等をもっと取り入れて欲しかった。
- 三、若者技術者が減っているが、それについての政策や対策を具体的に知りたかった。
- 四、各章ごと動画や映画等の動きの画面が欲しかった。

アスファルト舗装に関する講習会を開催

愛知県アスファルト合材協会・(一社)道建協中部支部

愛知県アスファルト合材協会(川中喜雄会長)と(一社)日本道路建設業協会中部支部(川端清太支部長)は7月10日、名古屋市中区の名古屋ガーデンパレスで「平成25年度アスファルト舗装に関する講習会」を会員企業から132名の参加があり、4時間にわたりアスファルト舗装を取り巻く環境が変化している事に対応した最新技術の取得についての講習がありました。

開会挨拶では、難波陽一愛知県アスファルト合材協会技術管理委員会担当理事が「新政権による経済対策で業界にようやく光が見えてきたが、技術者不足や高齢者問題など課題は山積している中で、舗装工事のプロとして安全と品質を当たり前にする必要があり、その技術を先輩方から継承していくには、使う材料から管理までをトータルで技術研鑽していかなければならない」との考えを示したうえ、「この講習会を通して一層の努力をお願いしたい」との挨拶がありました。

この後国土交通省中部地方整備局道路部特定道路工事対策官から「道路をめぐる最近の話題」をテーマに、本年3月に改正された「道路法などの一部改正法律案」や「総合評価落札方式の改正」・「交通ネットワーク整備」・「事前防災・減災対策」・「長寿命化への対応」などの説明がありました。

続いて(一社)日本道路建設業協会中部支部伊藤政夫企画調査課長から「アスファルト混合物事前審査制度」と題して導入状況や立入調査結果報告等が細かいデータを基に説明があり、その後休憩をはさみ、鹿島道路株式会社中部支店水野工事部担当部長から「アスファルト混合物試験及び現場試験について」、東亜道路工業株式会社中部支社杉浦裕之技術部長から「中温化舗装って何?」をテーマにそれぞれ説明があり、最後に質疑応答が行われ閉会挨拶を(一社)日本道路建設業協会中部支部環境委員会青野俊弘委員長が述べられ終了致しました。



技術委員会

建設技術フェア2013in中部

最新の技術や工法などが一堂に結集する建設技術フェア2013in中部が10月24日と25日の二日間、名古屋市千種区の吹上ホールで開催されました。

17回を迎える今回は、174者が防災・災害対策や維持管理・長寿命化を中心に5分野、187技術を出店。主催者企画として、現場の第一線で活躍する先輩が学生の質問に答える「学生交流ひろば」、屋外では災害対策車両展示や豪雨・地震体験コーナーを設置、一般来訪者にも広くアピールしました。

24日に行われた開会式で、主催者を代表し梅山和成中部地方整備局長は「地震や津波などに対する防災・災害対策や、社会資本の老朽化に伴う適切な維持管理・長寿命

化は重要な問題。これらの課題に対応するためにも、産学官の交流により技術をさらに向上させ、現場での導入につなげて欲しい」と挨拶されました。

また、長期出展者に対する感謝状を平出純一中部地方整備局企画部長から贈呈されました。

今回は新企画も充実しており、管内の道の駅が集結し観光案内や物産展、地域情報を発信する「道の駅ミニフェア」、小中学生が川や道をテーマに撮影した「ちびっこカメラマンコンテスト」、園児による絵画展を実施しました。

建設関係7団体の関係者が、大学生や高等専門学校生など将来の建設業を担う学生を対象に、「学生交流ひろば」は内容をさらに充実させて、素朴な質問から専門的な質問まで幅広く答えるようにしました。



建設技術フェア2013in中部開会式

ijutsu fair 2013 i



学生のための技術相談コーナー



中部地方整備局 梅山局長挨拶

防災訓練

大地震を想定した訓練を実施

中部緊急防災協会(会員数59社)は9月2日に大地震発生を想定した防災訓練を愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県下の会員協力で実施しました。

当日は、(一社)日本道路建設業協会中部支部に対策本部を設置し、役員25名が集まり本部長の指示で午前9時に防災宣言発令が各地区責任者に伝達され、それを受けて各地区16班の班長を中心に「緊急用給水タンク」の保管場

所の確認、点検・清掃、及び備蓄資機材の点検確認を行いました。

この訓練は毎年「防災の日」に実施することによって防災意識の向上と、会員相互の緊密かつ有機的な連携、協力の下、防災訓練を実施することにより、迅速かつ的確な応援活動のための連携体制の確立及び防災力の向上を図る目的でおこなっています。



静岡班

中部緊急防災隊、静岡地区静岡班は班員10社で編成されています。防災訓練当日は、本部事務局より9時15分に給水タンク保管場所の確認と清掃の指示を受け、10時20分に保管場所に集まり、給水タンクの点検、清掃を行いました。防災隊による給水タンクの設置以来、9月の防災の日

に同様の作業を行い、非常時に給水タンクの出勤が出来るよう訓練をしています。

その後、班員会議を行い、訓練の成果確認と本部への訓練終了の報告を行いました。最後に、災害もなく穏やかな生活が続くことを祈っております。



安全委員会

平成26年新年を迎え支部会員の皆様のご発展を祈念いたします。
平成25年7月に、当支部会員のフジタ道路㈱が「安全確保の取り組み、安全な工事施工」安全委員会としても喜ばしく、範として展開して行きたいと思っております。平成25年度秋季も現場状況に合わせた安全対策、方法を提案出来る様努めますのでご協力よろしく

パトロール報告

1. パトロール箇所

- 平成25年11月13日(水曜日)
(平成25年度 中央自動車道合同安全パトロール)
・平成24年度 中央自動車道飯田管内舗装補修工事 世紀東急工業(株)

2. 参加者名簿

中日本高速道路(株)

名古屋支社 保全サービス事業部
飯田保全サービスセンター

保全T担当L
副所長
保全工事担当課長

木曾 茂
白田 芳彦
山本 洋敬

中部地区高速道路保全工事安全対策協議会

中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)
中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)

事業第二部長
企画総務部調査役

國原博司
竹内美史

(一社)日本道路建設業協会中部支部 安全委員会

安全委員長	(株)ガイアートT・K	民部 順一
安全委員	フジタ道路(株)	日比野 雄司
"	常盤工業(株)	佐々木 清
"	大有建設(株)	綱瀬 茂樹
"	(株)市川工務店	小林 功和
"	福田道路(株)	戸井 恒夫
"	戸田道路(株)	栗田 吉典
"	(株)佐藤渡辺	中江 重夫
"	(株)ガイアートT・K	山本 勝
幹事長	日本道路(株)	寺林 裕二



工に他の横断」として中部地方整備局より安全工事局長表彰を受賞されました。
官民合同パトロールを発注者、安全委員、現場担当者合同で実施しました。
くお願いいたします。

パトロール報告

1. パトロール箇所

● 平成25年11月20日(水曜日)

(平成25年度 21号岐大BP舗装工事安全パトロール)

- ・平成25年度 21号岐大BP稲里地区上り舗装工事 日本道路(株)
- ・平成25年度 21号岐大BP稲里地区下り舗装工事 大有建設(株)
- ・平成25年度 21号岐大BP牛牧地区上り舗装工事 岐建(株)

2. 参加者名簿

中部地方整備局

道路部	特定道路工事対策官	前田 和弘
岐阜国道工事事務所	副所長	満仲 滋夫
	工務課長	藤山 一夫
岐阜国道維持出張所	所長	加納 洋二
	技術係長	稲葉 亮

(一社)日本道路建設業協会 中部支部 安全委員会

安全副委員長	前田道路(株)	今枝 良三
安 全 委 員	三井住建道路(株)	佐々木 日出幸
"	中部土木(株)	岩井 昭憲
"	地崎道路(株)	武田 秀行
"	東京舗装工業(株)	石田尾 悟
"	(株)昭建	澤田 三郎
"	(株)ガイアートT・K	大山 泰司
"	(株)ガイアートT・K	山本 勝
支 部 長	鹿島道路(株)	川端 清太



道建協の **社会・環境** 貢献活動

AED贈呈式

道建協で2007年に策定した「社会・環境貢献活動指針」に基づいて、本年度は「建設技術フェア2013in中部」の中で贈呈式が行われました。

今年は道の駅「鳳来三河三石」(愛知県新城市、平田範男組合長)にAED(自動体外式除細動器)を寄贈しました。

公共施設を中心に広く普及しているAEDですが、道路関係施設では高速道路のサービスエリアを除き、未設置箇

所が多いのが実情。このため道建協は08年度から地域社会や道路利用者の安全・安心を確保しようと道の駅への寄贈をしています。今回から中部支部管内(長野を含む5県)で二巡目に入りました。



AED贈呈式

 鳳来三河三石



AED実演講習



中部緊急防災隊

防災隊式典・班長会議

一般社団法人 日本道路建設業協会中部支部(川端清太支部長)の会員を中心に中部5県の道路事業に携わる有志で結成する「中部緊急防災隊」(川端本部長)が7月24日に名古屋市名東区のサンプラザシーズンズで「中部緊急防災隊式典」を開催した。愛知、岐阜、三重、静岡、長野の中部5県から180人が参加、午前中には各地区の代表者と事務局により班長会議を開催し防災活動の一層の充実に向けて決意を新たにした。

式典では、開会の辞、隊旗入場に続いて川端本部長が訓示に立ち、「緊急時の道路確保に向け、これまでの経験を生かせるよう、連絡体制の強化と迅速な対応を図ってほしい」と呼び掛けた。

また来賓あいさつでは、国土交通省中部地方整備局の田村秀夫企画部長が「東日本大震災や台風災害での多大な尽力に感謝している。皆さまの活躍がなければ、速やかな救急活動や支援物資の供給が滞る。今後も来るべき巨大災害に備え、しっかりと準備を進めてほしい」とあらためて協力を求めた。

これを受け、一般社団法人 日本道路建設業協会本部の渡邊忠泰環境・安全労働委員長が「期待される防災隊を目指していきたい」と決意を述べた。最後に中部緊急防災隊民部順一隊長が綱領を朗読した。

中部緊急防災隊式典



会員だより

鎌ヶ岳登頂

真柄 奨 書

西に鈴鹿山脈が連なり、その真西に中部地方ではポピュラーな御在所岳(1,212m)が聳えロープウェイの鉄塔が朝日に映えている。そしてその南の向かい側には鈴鹿山脈で最もアルペン的な山容で「鈴鹿の槍ヶ岳・マッターホルン」と呼ばれる「鎌ヶ岳」(1,161m)が均整のとれた三角形の勇姿を見せている。ある日数人が集まり鎌ヶ岳を見上げながら「いっぺんあの山に登ろう」ということになった。10月12日(土曜日)快晴「アイトム建設山登りの会有志」4人は、午前八時鈴鹿スカイラインの頂上付近にある武平トンネルの滋賀県側の駐車場に集合。

土曜日の事もあって駐車場は満車でびっくり。愛知や滋賀等の他県車が多く山の人気を実感。コースタイムが約二時間だが、山登りの経験者は小生のみ。従って鎌ヶ岳も小生以外は初めてで、登山届けを出し、少々不安を覚えながら数年前の記憶と案内標識を頼りに武平トンネルの坑口の上から登頂開始。この辺一帯の山は、花崗岩からなり、斜面では風化が進んでおり登り初めてすぐにガレ場で足が地に着かない。10分ほどで御在所方面(北側)鎌ヶ岳



▼ 鎌ヶ岳

方面(南側)の分岐に到着。暫く登ると格好良い形の「鎌の勇姿」が近くに姿を現した。「あれが鎌だよ」と話したら「近いやん」との声。それからは山容の如く勾配は急で、花崗岩の風化した岩場とガレ場に足を取られ大汗をかきながら「チョットなめたなー」の声も。頂上を前にしての急坂は、ロープや鎖で岩場を登る所だが、風化が進んで砂が洗い流され危険な為、籠を緩やかに迂回して一時間半で頂上に到着。少し風が合ったが普段味わえない新鮮な空気と景色を満喫。食事後帰山、麓の温泉で疲れをとり帰宅した。次回は「御在所岳」を春には「花の藤原」に登ろうと計画しています。会員の皆様も是非鈴鹿の山に挑戦してください。



アイトム建設(株) 真柄 奨



季節の写真



ふるさとの
山にむかいて
言うことなし
ふるさとの山は
ありがたきかな
石川啄木

支店長交代

● 東京舗装工業株式会社 中部支店……………伊藤 元信 ▶ 石田尾 悟(平成25年10月1日)

編集後記

今年度より福島先輩から総務委員長の重責を引き継ぐこととなり、正直自分で務まるかどうか非常に不安でしたが、色々な方々にご指導を受けながら何とか総会、式典、講演会等十分とは言えないかもしれませんが、大きなおしかりを受けることなく無事執り行うことができたと思います。

ここまですを振り返りますと委員の方々の委員会活動に対する意識の高さに改めて驚かされます。

例を上げますと私の相談ごとに対し、どなたかが必ずその場でご意見、回答を出していただけますし、委

員の方々がご自分の年間行事に関する役割をある程度認識されていることなどからまとめ役の私の立場から申ししても力強い限りです。

人事異動等でメンバーも年々変わる中、ここまでの組織を作ってこられた諸先輩方のご努力に感謝するとともに、今後とも委員全員のモチベーションを下げることなくより一層委員会活動を成熟させるべく、微力ながら努力いたしますので、皆様の温かいご理解とご支援よろしくお願い致します。

広報委員 宇野

(一社)日本道路建設業協会 中部支部「広報委員会」まで

連絡先

●TEL 052-971-5310 ●FAX 052-971-5375

●ホームページ <http://www.dohkenkyo.or.jp/> ●Eメール chubu@dohkenkyo.or.jp

道路開通

Road opening of traffic

●平成25年9月29日(日)
国道42号熊野尾鷲道路

尾鷲南IC から 熊野大泊IC



▲開通式



平成27年度開通予定



●平成25年11月23日(祝・土)
名古屋高速4号東海線

六番北IC から 木場IC



▲開通式

	延長	凡例
計画区間	11.6km	■
事業区間	8.3km	■
整備区間	11.6km	■

